

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス 2020

SPI Japan 2020

日時 2020年10月14日(水)~16日(金)

オンライン開催



主催：日本SPIコンソーシアム(JASPIC)

後援：独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) / ソフトウェア技術者協会(SEA) / 日本SPICEネットワーク
一般財団法人 日本科学技術連盟(JUSE) / 一般社団法人 PMI日本支部 / 派生開発推進協議会(AFFORDD) / Agile Japan

SPI Japan 2020 開催にあたって

今日、ソフトウェアが中核となる社会・産業システムを支えるインフラとしての役割を担うだけでなく、さまざまな工業製品の高機能化を推進するキーファクターとしてその重要性がますます高まっています。さらに先進技術の進歩を背景に、IoT 技術が社会・産業に浸透しつつあり、製品／サービスの開発を取り巻くあらゆる業界に広がりを見せている。

これに伴い、ソフトウェアの多様性、複雑性、規模は飛躍的に増大し続け、国際的な競争の激化が、この傾向に、ますます拍車をかけています。ソフトウェアの「価値」を高めるには、絶え間ないプロセス改善を通じて挑戦していく以外に道はありません。

いま企業は新型コロナによって、在宅勤務や遠隔教育など「オンラインシフト」が強いられることになったが、リアルでやっていたことを一時的にオンライン化してしのぐのではなく、「オンラインを前提とした価値設計」が必要になった。企業の生産性向上や高収益化、サイバーシステムやデジタルツールを取り込む良い機会になる。

これら「変化」への対応として、“オンライン化した社会”のパラダイムシフトにより、IoT、デジタルビジネス、ビッグデータ、人工知能、Fintec、SNSやスマートフォンを中心とした次世代エコシステムなど「新たな価値」を生み出すサービスへの対応があげられる。それらに派生して基幹系システムの再構築やアジャイル型開発の生産技術革新の取組み、オペレーション業務へのロボット導入などに拡大している。IoTに取り組むにはプロセス改善と同様に、ビジネスモデル、トップのコミットメント、チーム作り、大量・多種類・多頻度でデータを収集・分析し、高速でPDCAを回し、スケールアップしていく取組みになる。

プロセス改善に立ち向かう私たちは、ビジネスモデルの移り変わりや技術の展望を意識し、これまでのプロセス改善活動で得られた多様な事例や知見を体系化・活用し、各ステークホルダーと繋がりあい、価値を共創して「次の変化」へ対応できると考えている。

JASPIC では、次の10年を見据え、ビジョンに向かって①知識の活用、②価値の訴求・探究、③専門職として確立、④新分野など貢献領域の拡大をすすめている。

今回の SPI Japan は、はじめてオンライン会議となり、発表や討論において、「次の変化」への対応に向けてさまざまな発見、価値の探求がなされることを期待します。

日本 SPI コンソーシアム 理事長
赤坂 幸彦 (NTT データシステム技術株式会社)

SPI Japan 2020 開催にあたって

遠隔開催の SPI Japan 2020(SJ20)へようこそ！ 今回はいつものように会場まで皆さんに足を運んでいただく形を予定していましたが、ご存知のようにあのにつきウイルスへの接触を避けていただくため、直接お会いするのではない、SJ 初の遠隔開催といたしました。

SJ20のテーマは「抽象化」を意味しています。他者の話を聴くときにとっても重要な過程です。抽象化はアナロジーから始まることがあります。講演や事例を聴いて、自分の持っている課題と似ている点や共通している点に気がつき、両者共通のエッセンスを引き出せたら、それが抽象化です。そこに具体的な要素を入れ込んだり変動要素を現状に合わせて固定したりすれば、実際の課題に適用できるようになります。是非、このような目で本カンファレンスを活用してください。

今でこそ遠隔開催のカンファレンスは珍しくなくなりましたが、今年の SJ の準備を始めた頃にはまだ事例も少なく、何から手をつけて良いのか暗中模索でした。その中でスタッフは課題を一から洗い直し、リスクを識別、軽減、管理し、開催まで漕ぎ着けました。スタッフの代表者として誇りに思います。

この、遠隔開催が、正に抽象化の例でした。提供することの質は同じですが、形が変わります。では形が変わっても保持しなくてはならないものは何なのか。SPI Japan とは何なのか。意義を再認識し、それを皆さんにお届けする形を、これまで作ってきました。プログラム委員会で継承されてきた準備・運営マニュアルの記述のうち、今回も使えるもの、形に合わせて変更するもの、追加するものは何か。そういったエッセンスの抽出とパラメータ調整を何度も何度も繰り返して、このカンファレンスを練り上げました。

SPI Japan のエッセンスが何であるのか。それは参加してくださる皆さんの判断に委ねたいと思います。本カンファレンスに期待していたことが得られましたら、エッセンスの保持は成功したのだと思います。どうぞ期待を持って、貪欲に、各セッションをお楽しみください。

2020年10月

SPI Japan 2020	実行委員長	林 好一
SPI Japan 2020	副実行委員長	清水 崇司、水田 恵
SPI Japan 2020	プログラム委員長	武田 治紀、竹内 朝一、山本 恭子

プログラム

《1日目》 10月14日(水) (1/7)

時間	内容
9:45 頃～	プログラム開始時刻の30～15分前から接続開始
	◎オープニング
10:00 ～ 12:00	◎基調講演 目的を実現する仕組みをデザインする ～アーキテクチャから理解する「仕組み」の考え方～ 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授 白坂 成功 氏
12:00 ～ 13:30	休憩
	◎セッション1 (一般発表) エンジニアリング改善
13:30 ～ 14:30	開発SEが使える！今注目のリスク分析手法 STAMP/STPA のシステム開発への適用 高橋 和博 (富士通クオリティ・ラボ株式会社)
	USDM形式の要求仕様書作成支援ツールのご紹介 吉原 政智 (株式会社 Symphony)
14:30 ～ 14:35	休憩
	◎セッション2 (一般発表) 組織・働き方改革
14:35 ～ 15:35	いざ！品質革新本部 Transformation で働き方をアップデート！ 松崎 美保 (TIS 株式会社)
	デコボコチームをエナジャイズし続けた3つの要素とは 珠野 知子 (株式会社日立ソリューションズ)

《1日目》 10月14日(水) (2/7)

時間	内容
15:35 ～ 16:00	休憩
	◎セッション3 (一般発表) 人材育成
	品質向上にむけた人材育成への取り組み事例 後藤 淳 (NEC ソリューションイノベータ株式会社)
16:00 ～ 17:30	組織と個人が内発的動機で継続的に成長し続けるための実践手法 小島 優介 (株式会社デンソークリエイト)
	ソフトウェア業界と技術者の発展と成長に向けた PSP(Personal Software Process)活用の提案 JASPIC コアコンピテントチーム研究会 (代表)阿南 佳之 (個人会員)

《2日目》 10月15日(木) (3/7)

時間	内容
9:45頃～	プログラム開始時刻の30～15分前から接続開始
10:00～ 12:00	<p align="center">◎セッション4（一般発表） プロセス改善</p>
	<p align="center">プロジェクトに寄り添ったレビュー改善の実践と効果 久連石 圭 (株式会社東芝)</p>
	<p align="center">ゼロから作る品質マネジメントシステム(QMS) 和良品 文之丞 (特定非営利活動法人 ITプロ技術者機構)</p>
	<p align="center">【SEPG 設置事例】本質的なこと(価値の提供)に集中することで、 お客様とのエンゲージメントを醸成する 大盛 誠人 (株式会社 NTT データ)</p>
12:00～ 13:30	<p align="center">データ分析の光と影 JASPIC Statistical Process Control 分科会 (代表)小室 睦 (株式会社プロセス分析ラボ)</p> <p align="center">休憩</p>

《2日目》 10月15日(木) (4/7)

時間	内容
	◎セッション5 (一般発表) アジャイル
13:30 ～ 14:30	アジャイルで開発するための sprint 計画のポイント 黒石 英孝 (パナソニック アドバンステクノロジー株式会社)
	モブ・プログラミングを用いたアジャイル開発プロセスの1事例 永田 敦 (サイボウズ株式会社)
14:30 ～ 14:35	休憩
14:35 ～ 15:35	組織文化で届ける品質と顧客満足 小坂 淳貴 (クリエイションライン株式会社)
	スクラム開発と向き合うことでスクラムを習得する 今井 貴明 (NEC ネクサソリューションズ株式会社)
15:35 ～ 16:00	休憩

《2日目》 10月15日(木) (5/7)

時間	内容
16:00 ～ 17:30	◎セッション6 (一般発表) プロジェクトマネジメント
	組織全体での EVM によるプロジェクト進捗管理 川崎 雅弘 (パナソニック アドバンステクノロジー株式会社)
	「滞留タスク管理」のススメ 古石 ゆみ (株式会社 SRA)
	FRI(Factor-Risk-Influence)モデルによるリスク構造の見える化 安達 賢二 (株式会社 HBA)

《3日目》 10月16日(金) (6/7)

時間	内容
10:45 頃～	プログラム開始時刻の30～15分前から接続開始
11:00 ～ 12:00	<p style="text-align: center;">◎JASPIC 分科会</p> <p style="text-align: center;">「カレー」のレシピから「抽象」を学ぶ JASPIC 関西分科会 (代表)伊達 渡 (個人会員)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">「アジャイル開発推進ポイント」 ～情報サービス産業協会(JISA)アジャイル開発グループとJASPIC アジャイル分科会の融合 － 情報サービス産業におけるアジャイル開発の動向とJASPIC 流改善アプローチ～ 一般社団法人 情報サービス産業協会 技術革新委員会 エンジニアリング部会 アジャイル 開発グループ (主査)福田 朋紀 JASPIC アジャイル分科会 (代表)磯野 聖 (キヤノン IT ソリューションズ株式会社)</p>
12:00 ～ 13:30	休憩

《3日目》 10月16日(金) (7/7)

時間	内容
13:30 ～ 16:30	<p style="text-align: center;">◎ミニ講演&みんなで納得セッション IT 新時代を牽引するニュータイプになろう！ ～ With コロナでも大丈夫！ 必要とされる改革・変革とは？ ～</p> <p style="text-align: center;">ミニ講演① 新時代の技術者に求められる能力と改善の進め方 ～適応力:未体験ゾーンで成長に挑む～ 株式会社 NTT データ 技術革新統括本部 テクノロジストラテジスト 端山 毅 氏</p> <p style="text-align: center;">ミニ講演② ソフトウェア品質をめぐる諸問題とプロセス改善 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授 小笠原 秀人 氏</p> <p style="text-align: center;">ミニ講演③ アジャイル開発を4つの観点から見よう ～プロセス、改善、人材育成、組織的支援～ 富士通株式会社 和田 憲明 氏</p> <p style="text-align: center;">ミニ講演④ 人工知能とプロジェクトマネジメント 北陸先端科学技術大学院大学 教授 東京サテライト長 内平 直志 氏</p> <p style="text-align: center;">みんなで納得セッション モデレーター: 端山 毅 氏 パネラー: 小笠原 秀人 氏 和田 憲明 氏 内平 直志 氏</p>
	<p>◎クロージング</p>

発表資料掲載について

一般発表セッションの発表資料は、会期終了後に日本SPIコンソーシアムのWebサイトで一般公開します。
(掲載許可が得られなかった資料は除きます)

◀日本SPIコンソーシアムWebサイト▶ <http://www.jaspic.org/>

お願い

- PC、タブレット、スマートフォンで参加してください。
 - ただし、複数デバイスでの同時アクセスはできません。
 - 通信環境の良いところ、周囲の騒音に配慮されるなど参加いただく環境にご配慮ください。
 - 以下の行為を禁止とさせていただきます。ご協力をお願い申し上げます。
 - 著作権、商標権、プライバシー権、氏名権、肖像権、名誉等の他人の権利を侵害する行為
 - URL、ID、パスワードの第三者への譲渡、貸与
 - 登録者以外の第三者が参加・聴講される行為
 - 録音・録画行為、画面のスクリーンショット撮影
 - オンライン上で発生した不具合を利用する行為
 - 主催者の承諾なく、営利を目的とした情報提供等の行為
 - イベントに関係のない内容のチャット機能への書き込み
 - その他、主催者が不適切・不相当であると判断した行為
 - その他、不明な点などございましたら、下記へお問い合わせ下さい。
 - 【10月14日 9:00 ~ 10月16日 16:00】
 - メールアドレス: supportA アット jaspic.org
-

基調講演

目的を実現する仕組みをデザインする

～アーキテクチャから理解する「仕組み」の考え方～

目的を実現するためにはそのための「仕組み」が必要となる。その「仕組み」こそが、“アーキテクチャ”である。本講演では、アーキテクチャにかかわる基本的な考え方を紹介した上で、ソフトウェアに限らず、ビジネスや組織、法制度まで含めてアーキテクチャとして捉えることがどのように重要であるのかを具体的な事例を交えて説明する。その上で、VUCA(Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)という言葉に代表されるように、先行きが不透明で急激な変化が起きるため、必ずしもこれまでの想定がそのままでは適用できない時代において、どのように考えることによって「仕組み」を生かしていくことができるのか、そのアプローチについて“アーキテクチャ”の観点から紹介する。

白坂 成功(しらかかせいこう) 氏

慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授



プロフィール

東京大学大学院修士課程修了(航空宇宙工学)、慶應義塾大学後期博士課程修了(システムエンジニアリング学)。大学院修了後、三菱電機にて15年間、宇宙開発に従事。「こうのとりのこ」などの開発に参画。技術・社会融合システムのイノベーション創出方法論などの研究に取り組む。2008年より慶應義塾大学大学院 SDM 研究科非常勤准教授。2010年より同准教授、2017年より同教授。2015年12月～2019年3月まで内閣府革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)のプログラムマネージャーとしてオンデマンド型小型合成開口レーダ(SAR)衛星を開発。

ミニ講演&みんなで納得セッション

IT 新時代を牽引するニュータイプになろう！

～ With コロナでも大丈夫！ 必要とされる改革・変革とは？ ～

※ニュータイプ:改革・変革に適応できるリーダーやエンジニア

前半の「ミニ講演」と後半の「みんなで納得セッション」で構成されています。
「ミニ講演」では4名の講師がそれぞれの専門的な立場から講演を行います。

ミニ講演①

新時代の技術者に求められる能力と改善の進め方

～適応力:未体験ゾーンで成長に挑む～

多彩な高度技術が手軽に利用可能になり社会及び事業環境の変化が加速しています。このような状況で活躍し続けるために求められる能力、及び不確実性に対処する効果的な仕事の進め方を示し、可能性に挑戦し成長し続けるためのマインドセットについて論じます。

端山 毅(はやま たけし) 氏

株式会社 NTT データ 技術革新統括本部 テクノロジーストラテジスト



プロフィール

株式会社 NTT データにおいて全社 QMS の構築運用、CMMI 適用とプロセス改善施策、PM 育成/支援施策、定量データ分析などを推進。同社品質保証部長(2010-2015 年)。株式会社 NTT データユニバーシティ社長(2015-2017 年)。JASPIC 理事、JISA 技術革新部会長、PMI 日本支部副会長、ISO/TC258 Expert、東京工業大学情報理工学院非常勤講師、博士(工学)、PMP。

ミニ講演②

ソフトウェア品質をめぐる諸問題とプロセス改善

昨今の企業活動においては、新しいデジタル技術によって既存のビジネスから脱却し、新たな価値を生み出すための取り組みが加速しています。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、在宅勤務、オンライン会議が急速に広がってきています。このような状況の中、ソフトウェア品質をめぐるどのような問題があるのかを俯瞰し、新たな開発手法やプロセスに取り組む必要があるソフトウェア開発において、どのようにプロセス改善活動を進めればよいか考察します。

小笠原 秀人(おがさわら ひでと) 氏

千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授



プロフィール

1990 年株式会社東芝に入社。ソフトウェア生産技術(メトリクス活用、不具合管理、静的解析、テスト設計/管理、プロセス改善など)に関する研究・開発に従事。2018 年 4 月から現職。ソフトウェア工学の研究に従事。

ミニ講演③

アジャイル開発を 4 つの観点から見てみよう ～プロセス、改善、人材育成、組織的支援～

現在、アジャイル開発という言葉を知らない人はいませんが、解釈は人それぞれで、捉えどころがないものです。そこで、他の分野の知見をお借りし、私なりに 4 つの観点からアジャイル開発を眺めてみます。賛成/反対意見それぞれあると思いますが、参加者の方々がアジャイル開発を考え、次の一步を踏み出すヒントになれば幸いです。

和田 憲明(わた のりあき) 氏

富士通株式会社



プロフィール

アジャイルジャパン実行委員(2010 年～、2015～2017 年は実行委員長)。
情報処理推進機構(IPA)アジャイル WG メンバ(2017 年～)。
2006 年に社内でアジャイルコミュニティを作り普及活動を実施。2011 年から、技術支援部門で本業としてアジャイル支援活動に従事。また、社外の様々なアジャイルコミュニティにも参加しており、日本でのアジャイルの潮流を長年肌で感じてきた。趣味はジャグリングを多くの人達に教えること。「ジャグリングは見るよりやる方が 100 倍面白いですよ」

ミニ講演④

人工知能とプロジェクトマネジメント

With コロナで産業や社会のデジタル化が加速しています。ソフトウェア開発においてもデジタル化が進み、データに基づく定量的なプロジェクトマネジメントが可能になり、人工知能技術の効果的な導入が期待されています。一方、人工知能の実用化が進むにつれ、従来の情報システム開発にはなかった困難さを伴う「人工知能応用システム」開発のプロジェクトマネジメントが喫緊の課題となっています。ここでは、プロジェクトマネジメントにおける人工知能の適用(PM by AI)と、人工知能応用システム開発におけるプロジェクトマネジメント(PM for AI)の二つの面の課題と研究動向を紹介します。

内平 直志(うちひら なおし) 氏

北陸先端科学技術大学院大学 教授 東京サテライト長



プロフィール

1997 年東京工業大学で博士(工学)、2010 年北陸先端科学技術大学院大学で博士(知識科学)取得。(株)東芝 研究開発センター システム技術ラボラトリー室長、研究開発センター次長、技監等を経て、2013 年から現職。日本 MOT 学会理事・企画委員長、研究・イノベーション学会総務理事、サービス学会理事などを兼任。専門はソフトウェア工学、サービス科学、イノベーションマネジメント。著書に「戦略的 IoT マネジメント」(ミネルバ書房)。

みんなで納得セッション

「みんなで納得セッション」は、皆さまからいただいた講演内容への質問やご意見をもとに、講師陣による回答とディスカッションで「納得感」をお持ち帰りいただくというセッションです。

モデレーター：端山 毅 氏

パネラー：小笠原 秀人 氏 和田 憲明 氏 内平 直志 氏

JASPIC とは

日本 SPIコンソーシアム(JASPIC)は、21 世紀の世界で利用されるさまざまな社会システム、産業システムや各種の工業製品などの開発の中核をなすソフトウェアプロセスの改善(以下 SPI と言います)および SPI に伴うプロセス評価(以下 SPA と言います)に関する研究、技術移転、普及活動、国際交流などを行うことを目的に設立された非営利団体です。

- SPI (Software Process Improvement)
- SPA (Software Process Assessment)

1. 活動の趣旨

JASPIC は、地道な改善活動に日夜励んでいる技術者が社会組織の壁¹を越えてプロセス改善に関して各自の経験や技術を交流し、改善技術を高める場を提供する非営利の団体です。

2. 活動の目的

JASPIC は、以下を行なうことを目的とします。

- (1) SPI および SPA に関して会員相互間の技術的・人的交流を図り、会員各自の技術力向上と技術移転の促進を図ります
- (2) SPI および SPA について、技術/方法論/モデルの研究を行ないます
- (3) 我が国における SPI および SPA に関する社会的認識と技術水準の向上を図るため、上記の活動の成果を活かして、SPI および SPA に関する啓発・普及活動を行ないます
- (4) SPI および SPA にかかわるグローバルスタンダード確立に向けた国際貢献や、世界各国におけるカンファレンス等を通じた技術者の国際交流を行ないます

3. 活動の概要

JASPIC は、上記の目的を達成するために、次の活動を行なっています。

- (1) 会員相互間の技術的・人的交流のための研究会、講演会、セミナー等の開催
- (2) 技術情報の収集及び配布
- (3) SPI および SPA に関する啓発・普及活動となる公開セミナー、ワークショップ、シンポジウム、SPI カンファレンス等の開催
- (4) 本会が目的を遂行するために必要な、SPI あるいはソフトウェアに関する各種団体との交流や支援
- (5) CMMI の日本語化に対する支援
- (6) SPI 及び SPA 関連文書の発行

¹ 社会組織の壁: 英語では、“Social/Organizational Barrier”。会社も含めて、学会、業界団体、政府関係機関、そうした「社会組織の壁」を意味しています。

4. JASPIC の会員と運営体制

JASPIC は、16 社の法人会員および個人の会員から構成され、それぞれの法人から参画している研究員や個人の会員は約 100 名となっています。JASPIC が提供するさまざまな活動やサービスは、研究員を中心に推進しています。以下に会員の一覧と、運営体制を示します。なお個人会員氏名は公開していません。

■JASPIC 会員(2020 年 8 月現在)

【法人会員】

株式会社インテック	株式会社SRA
NEC ソリューションイノベータ株式会社	株式会社NTTデータ
キオクシア株式会社	キヤノンITソリューションズ株式会社
株式会社シーエーシー	ソニー株式会社
TIS株式会社	株式会社東芝
パナソニック株式会社	株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ	富士通株式会社
矢崎総業株式会社	他 1 社

【名誉会員】

岸田 孝一	松原 友夫
-------	-------

■JASPIC 運営体制(2020 年 8 月現在)

【役員】

理事長	赤坂 幸彦(NTTデータシステム技術株式会社)	
理事	岡野 信保(株式会社日立製作所)	佐藤 弘(NEC ソリューションイノベータ株式会社)
	島田 さつき(富士通クオリティ・ラボ株式会社)	中川 雅通(パナソニック株式会社)
		端山 毅(株式会社NTTデータ)
外部理事	野中 誠(東洋大学)	近藤 康二
会計監事	池田 浩明(株式会社インテック)	
アドバイザ	岡田 公治(東京都市大学)	

【運営委員会】

委員長	遠藤 潔(株式会社日立ソリューションズ)	
副委員長	後藤 徳彦(NEC ソリューションイノベータ株式会社)	小松澤 敦(株式会社日立ドキュメントソリューションズ)
	佐藤 慎一(株式会社NTTデータ)	菅原 広行(ソニー株式会社)
	田村 朱麗(株式会社東芝)	水田 恵子(パナソニック株式会社)

5. JASPIC 活動概要

JASPIC では、以下の 3 つの活動を中心に活動をしています。

(1) 例会、分科会、合宿

会員間の情報共有、議論の場として開催しています

- 【例会】
2ヶ月に一回、午後半日で開催します。講演や会員企業からの事例発表が中心です。
- 【分科会】
あるテーマに対して、興味を持つメンバが集まり、一年間にわたって深く議論し、成果物を残します。
ここで作成した成果物は、JASPIC 会員企業のメンバが活用できるように提供されます。
- 【合宿】
年一回開催(5月開催、2日間)。特定のテーマに関する議論や各社の SPI 活動事例を紹介する場として活用しています。

(2) イベント

- SPI に関する実践事例の共有、先端技術の導入および SPI の普及(SPI に関する認知度を高める)のために開催しています。

SPI Japan(秋)/JASPIC トワイライトフォーラム(年 4 回程度夜間開催)

※JASPIC 会員は、無料あるいは会員価格で参加できます。

- その他

・社外団体との交流および、国際会議への派遣なども実施
・SPI 以外の幅広い情報/海外の最新動向を入手可能

(3) セミナー、トレーニング

JASPIC 会員のスキルアップを目指した活動(海外、国内の SPI コンサルタントとの契約を含む)です。
JASPIC 会員の要望に基づいて計画され実施されます。

6. JASPIC への参加方法

(1) 入会について

以下のサイトを参照してください。

http://www.jaspic.org/organization/join_us/

(2) お問い合わせ

以下のサイトに載っている連絡先までご連絡ください

<http://www.jaspic.org/contact/>

カンファレンススタッフ

●SPI Japan 2020 実行委員長

林 好一(個人会員)

●SPI Japan 2020 副実行委員長

清水 崇司(個人会員)

水田 恵子(パナソニック)

●SPI Japan 2020 プログラム委員長

竹内 朝一(東芝デベロップメントエンジニアリング)

武田 治紀(日立製作所)

山本 恭子(東芝インフラシステムズ)

●SPI Japan 2020 プログラム委員

池田 浩明(インテック)

石原 鉄也(矢崎総業)

泉 友弘(NTT データ)

金光 暁(富士通)

古石 ゆみ(SRA)

後藤 徳彦(NEC ソリューションイノベータ)

小林 誠(キヤノン IT ソリューションズ)

思坊田 和典(NEC ソリューションイノベータ)

園村 智弘(日立ソリューションズ)

飛田 正宏(キオクシア)

豆腐谷 晶憲(SRA)

中森 博晃(パナソニック)

野澤 秀樹(シーエーシー)

羽原 寿和(東芝)

平原 嘉幸(東芝テック)

室谷 隆(TIS)

両角 圭史(ソニー)

山田 大介(キヤノン IT ソリューションズ)

●SPI Japan 2020 SJ サポーター

阿南 佳之(個人会員)

磯野 聖(キヤノン IT ソリューションズ)

小笠原 秀人(個人会員)

緒方 勝(東芝インフラシステムズ)

岸 利至(キオクシア)

黒川 俊雄(シーエーシー)

鈴木 誠(日立ソリューションズ)

千田 哲義(NEC ソリューションイノベータ)

丹羽 愛一郎(個人会員)

●SPI Japan 2020 事務局

河野 明子(SRA)

鶴田 範子(SRA)

乗松 聡(乗松プロセス工房)

●JASPIC セミナー推進チーム

小松澤 敦(日立ドキュメントソリューションズ)

中森 勝(パナソニック)

中山 高宏(ソニー)

CMMI は、CMMI Institute により米国特許商標庁に登録されています。

SEPG は、カーネギーメロン大学の商標です。